

## 0.1 面積雨量（レーダ雨量平均）モジュール

以下に、モジュールの仕様概要と操作手順を示す。

表.1 モジュールの仕様概要

No	項目		内容
1	DLL 名		McRadarAverage. DLL
2	概要 (Summary)		レーダ雨量の平均を算出する。
3	送受信のパターン	受信	①降雨量 伝送仕様：2次元時系列 セル内変数：SCALOR_RAIN_FALL (mm/h)
		送信	①降雨量 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：SCALOR_RAIN_FALL (mm/h)
4	接続方法	受信	・要素接続は、2次元時系列で行い、降雨量を入力する。 ・上記以外の接続は、できません。
		送信	・要素接続は、1次元時系列で行い、降雨量が出力される。 ・上記以外の接続は、できません。
5	基礎式		流域平均雨量 = $\sum_{i=1}^n R_i / n$ $R_i$ : メッシュ $i$ の雨量 $n$ : メッシュ数
6	備考		・出力間隔は入力雨量時系列の時間間隔と同等か割り切れる値を入力する。
7	サンプルプロジェクト		・面積雨量（レーダ雨量平均）モジュール. prjdb

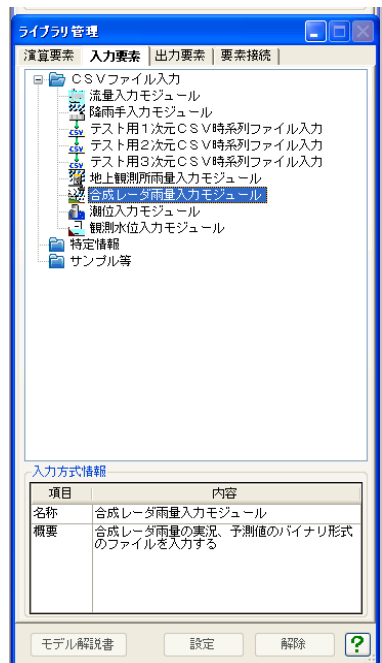
(1) 降雨量パターンの場合

1) モデル接続

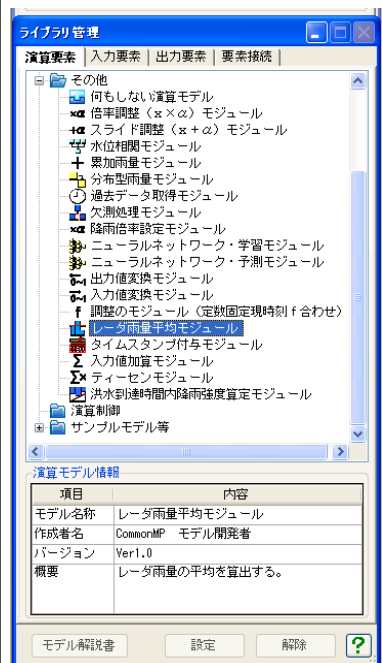
モデルの接続方法を、以下に示す。

①要素の配置を行い、下図に示すモジュールを設定する。

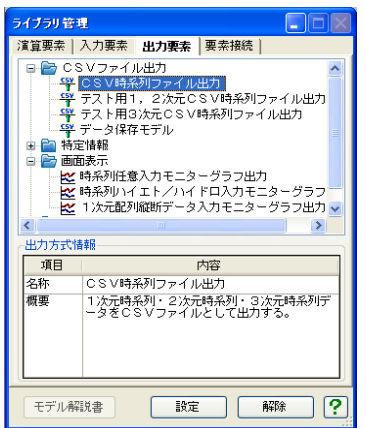
カテゴリーが入力要素の地上観測所雨量入力モデルを設定




カテゴリーが演算要素のレーダ雨量平均モデルを設定



カテゴリーが出力要素のCSV時系列ファイル出力モデルを設定

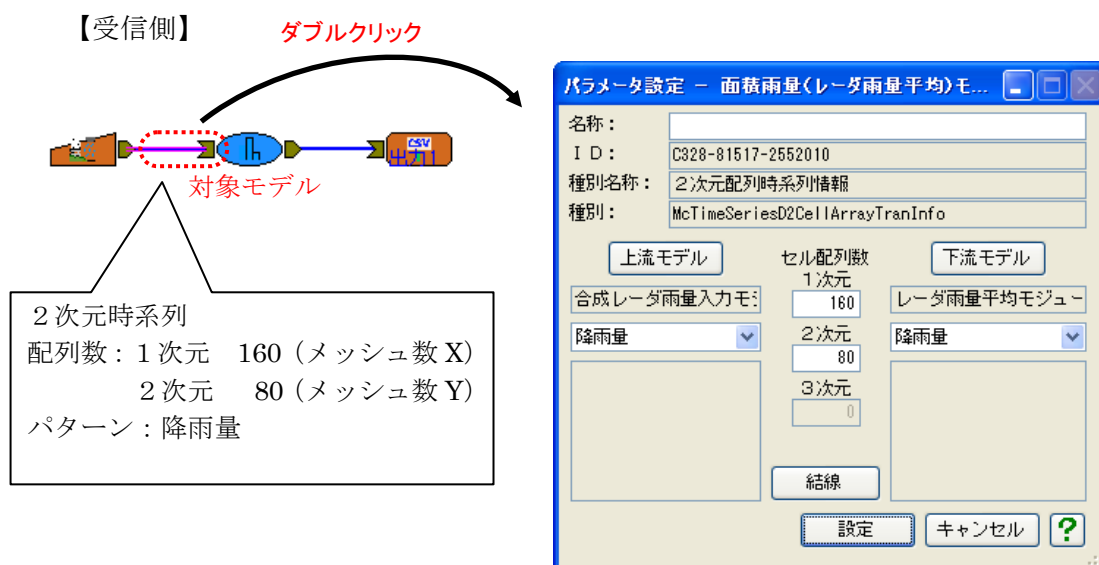




対象モデル

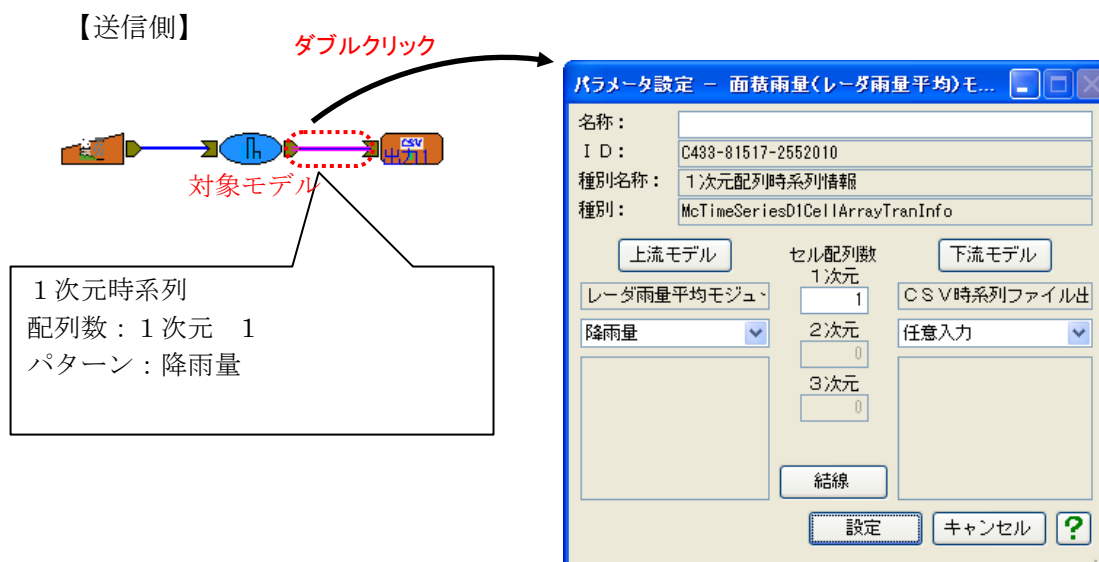
図.1 モデル接続

②要素接続は、以下の通り設定する。



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う。

図.2 要素接続（受信側）



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う。

図.3 要素接続（送信側）

2) パラメータ設定画面

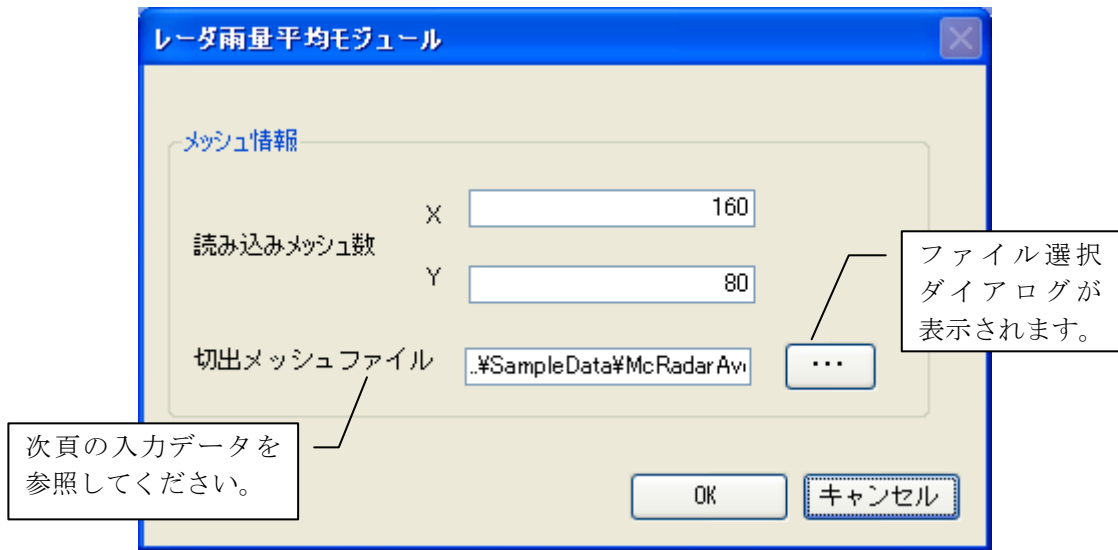


図.4 個別 GUI レイアウト図 (面積雨量 (レーダ雨量平均) モジュール)

